

## ソビエトに於ける労働者スポーツ

山崎 国昭

10月革命以後のソビエトにおけるスポーツ、体育の発展は世界のスポーツ、体育界における大きな関心事である。中でも、学校以外のスポーツ、体育の活動は注目されている。

ソビエトには、労働者スポーツ協会という組織もつくられ、労働者がスポーツ・体育を積極的にとり入れる努力をしている。これを知ることは、日本の労働者、体育関係者にとっても貴重な資料となるものと思ひ、訪ソの上その実態を調査してみた。

ソビエトでは、政府および共産党の方針として、各家庭の中にまでスポーツをとり入れるようにしている。ソビエトでの体育・スポーツの目的とされていることは、「体育・スポーツの向上によって、将来の明かるい社会の建設、またそれにあつたての共産主義的労働に対する全般的・総合的な体力の向上および健康維持」ということである。

体育・スポーツ活動の一番中心になるものは、スポーツ協会、スポーツクラブである。

これらの集団は、いろいろな機関に所属して作られるもので、例えば、工場、企業、ソホーズ、コルホーズなどとあらゆるソビエトの機関に属して作られている。もちろん、大学や学校にもスポーツ集団が作られる。

ソビエト全体には、産業別、地域別などの区分によって、各スポーツ協会があ

## ソビエトに於ける労働者スポーツ

る。

それぞれのスポーツ協会には、それぞれの愛称がつけられ、その愛称で呼ばれている。

“ロコモテブ”と呼ばれるものは、ソビエトのあらゆる所で国鉄に働いている人々が所属するスポーツ協会である。

“ブリベストニク”という協会は、あらゆる最高学府、大学関係の学生達の希望者が加入する学生のスポーツ協会である。

“ボードニック”は、河川関係の船員などが所属するスポーツ協会。

“スパルタク”は、前記のような産業以外の仕事、例えば、教師、医師、商業、航空関係の仕事をしている人々が加盟しているスポーツ協会である。

又、共和国の中に協会のあるものもあり、“トルード”と言えば労働という意味だが、ロシア共和国のスポーツ協会。“アワンガルト”というウクライナ共和国のスポーツ協会などがある。

各々のスポーツ協会は、町、地区、州、中央という一連の組織をもって、ソビエトの行政機関ごとにそういう団体の網がはりめぐらされている。前記のようなスポーツ協会は、26あり、それらのスポーツ協会は、ソビエト国内のあらゆる小さな体育・スポーツの団体をも統括している。

それは、コムソモール（青年共産党同盟委員会）の指導によって運営される。

ロコモティフ・ボードニックなどの産業別のスポーツ協会は、中央労働評議会によって統括されている。

各共和国のスポーツ協会、アワンガルト、トルードなどは、各共和国の労働者評議会に所属し、そして中央労働評議会の指導をうける。

これら26のスポーツ協会の中には、88,000のスポーツクラブが加入している。それらのスポーツクラブのメンバーは、2,500万人のスポーツマンが会員となっている。

これは、労働者の3分の1は体育・スポーツの活動に参加していることになる。さらに全ソビエトのスポーツ人口は8,000万人にのぼる。

## ソビエトに於ける労働者スポーツ

これらのことは、平均寿命の急激な伸び、国民の体位向上、生産向上に成果を上げて来た大きな背景と言えるだろう。

ソビエトにおけるスポーツ施設の概略は、スタジアム2,500, サッカー場4,000 ホッケー場10,000, プール1,000, 体育館20,000といった状況である。

全ソビエトのスポーツ団体の支出総額は、2億6,000万ルーブル(1,040億円)という巨額にのぼっている。

毎年新しい施設を作るために1,500万ルーブル(60億円)以上が費される。そして、その数倍の費用が個々の企業で新しい施設を作るのに計上されている。

各工場などのスポーツ施設は、各工場が運営している。それらの使用料等は一斉不必要である。

2,500万人のスポーツクラブメンバーのうち、95パーセントは自主的に加入した人々である。残りの5パーセントが、指導者などの報酬を受けて入っている人達である。

役員は労働組合の選挙で選ばれ、2年の任期をつとめる。そして、役員の中から上部団体の議長、副議長などが選挙で選ばれる。

2年の仕期が経つと信任投票が行なわれる。

各企業の中にある体育・スポーツクラブの経済的面は、労働組合が、予算の約30パーセントをあてることになっている。いかに、体育スポーツを重要視しているかがうかがえる。又、各地区のスポーツクラブは、その地区の行政団体がその経費を負担している。

スポーツクラブのメンバーは、年に30カペイク(120円)を納入すればそれでよい。

ソビエトでは、一流の選手を育てることだけでなく、大衆のスポーツをも重要視している。

## ソビエトに於ける労働者スポーツ

各職場には必ずスポーツクラブがあり、スポーツ施設がある。メンバーは無料で施設・用具を使い、コーチの指導を受けることもできる。職場内での試合、対外試合などのスケジュールもおりこまれている。一年間の行事は、全てカレンダーとなって壁にはり出されている。従って、誰でも、どこでどんなゲームが行なわれているか、どんな小さな競技会の予定まで知ることができる。

一般の労働者の健康と体位の向上をはかるためには、一週間に2～3回のスポーツが各団体別に行なわれる。仕事の疲労回復、気分転換、生産向上などのねらいで、各職場では職場体操が毎日2回実施されている。

その他シーズンや好みに応じて、各人がすすんでスポーツを行なえるように各団体は指導、援助をする。

スケート、スキー、釣り、旅行、キャンプ、狩猟などは好んで行なわれるスポーツである。

又特別に競技スポーツを行なって技をみがくクラブには、有給の指導者が働いている。

選手達は、全て医師の診断、指導のもとでトレーニングする。試合は、各職場単位のものから、共和国、全ソ、ヨーロッパ、世界へとつながってゆく大きなものまで関連してくる。

陸上競技、バレーボール、サッカー、バスケットボール、体操、自転車などは多勢の人々が参加する種目に入る。

4年に1度開かれる「スパルタキアード」は、日本の国民体育大会を大がかりにしたようなもので、各共和国の代表がモスクワに集結する。各共和国の代表選手は、各職場から各町、各地域と何回もの予選を経て選ばれる。1965年のスパルタキアードには、28種目に7,000名の参加者であった。予選からの参加者総数は、1,800万人にのぼった。

### 職場体操

別名生産体操ともいわれ、全職場の80%が実施している。1,000人以上の従業

## ソビエトに於ける労働者スポーツ

員について1人の有給専門トレーナーを配置することになっている。

キエフにある洋服工場では、仕事の途中で2回の職場体操を行なっている。従業員は3,500人で、職場体操の専門コーチは4名いて、その指導のもとで助手をつとめる無給トレーナーが8人いる。さらに、各ブロック別に指揮をとったりする人も配置されている。体操は音楽によって行なわれ、その内容は、仕事の内容によって異なったものを行なう。

ある生産工場の例では、一年間に、医療、欠勤などによる出費が、70万ルーブル（2億1千万円）の節約をしたという報告もあった。

### 健康グループ

スタジアム、体育館などには、健康増進のための特別のセクションがあって、中年の人や老人が集まって、ランニング、体操などを行なっている。この組織には、医師と指導者がおり、長生き研究所、スポーツ研究所と連絡をとり合っている。

### 指導者の養成

体育・スポーツの指導者は、主として体育大学出身である。その他にも、専門のスポーツでマスタースポーツの称号を与えられた優秀なスポーツマン出身の人もいる。

体育大学は全国に17。

教育大学附属体育学部52。

これらの出身者で指導にあたっている専門家は、75,000人ということである。

体育大学には夜間部もあり、合格した者には、学費、寮費、スポーツ費等は国家で負担している。

### アワンガルトスポーツ協会

ウクライナ共和国のスポーツ協会で、労働者評議会の統括のもとに活動してお

### ソビエトに於ける労働者スポーツ

り、会員 550 万人は、ウクライナの人口の12パーセントにあたる。44種目のスポーツを組織的に指導し、スポーツ学校もある。

学校における体育授業、スポーツ活動も活発に実施されている。学校以外にも、スポーツ学校やピオニール宮殿内のスポーツクラブなどが沢山あり、それらの教育、スポーツ活動を通じて、健康の尊さ、体位向上の方法、社会性などが養われる。

こどものスポーツ学校は2,000、生徒は50万人いる。

こうした背景で、多くの優秀なスポーツマンが世界のニュースをにぎわしたり、健康で労働力のある、タフな人々を育て上げている。

組織と施設とチャンスと教育。スポーツの発展、体力向上、長生き、のために、ソビエトほど力を入れている国は少ない。